

RETAILER ACADEMY NEWS

Jan 2020 | Bentley Motors Japan

2019年の日本での販売台数は522台 グローバルのセールスは11,000台超



2019年に日本で正規販売されたベントレーは、前年比19.0%増の522台でした。モデル別では、コンチネンタルGT（コンバーチブル含む）が248台と最多で、ベンテイガ（W12およびV8）が222台と続きました。ミューザンヌは22台で、新型の発表を控えていたフライングスパー（W12およびV8）は30台にとどまりました。リテーラーの皆様にご尽力いただいたことで、前年を上回るセールスを記録することができました。今年は新型フライングスパーのデリバリーが始まる大切な年です。ラグジュアリーセダンの魅力をしっかりとお客様にお伝えいただき、「次の100年」を素晴らしいものにする足がかりの1年にしていきたいと考えています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

全世界では7年連続で10,000台超を記録

全世界で2019年に販売されたベントレーは、前年比5%増の11,006台でした。10,000台以上を記録するのは7年連続です。地域別の最多は北米で、欧州とUKも力強い伸びを示しました。この好調の要因には、いくつかの魅力的な新型モデルの導入と、コンチネンタルGT W12やベンテイガ V8といった人気車種が世界中で受け入れられ続けたことなどが挙げられます。コンチネンタルGTは前年比54%増、ベンテイガも18%増と非常に人気が高く、ビスポーク部門のマリナーが手掛けた3種類の限定モデルも即座に完売しました。

ベントレー モーターズのエイドリアン・ホールマーク会長兼CEOは、「ベントレーの100年の歴史において、11,000人のお客様にベントレーをデリバリーしたのは4度目で、7年連続で10,000台を超えま

した。これは、歴史的に年間売上の約20%を占めてきたフライングスパーの売上がほとんどなかったにもかかわらずに達成されたことは、注目に値します。この結果はベントレーの収益性の向上を意味し、過去の成功が2020年と次の100年に向けて明確なシグナルを送ることを示しています」などとコメントしています。



2019年新規登録台数

ベンテイガ	W12	40
	V8	182
	小計	222
コンチネンタルGT	GT	200
	GT コンバーチブル	48
	小計	248
フライングスパー	W12	15
	V8	15
	小計	30
ミューザンヌ		22
合計		522

2019年地域別グローバルセールス

地域	2019年	2018年
北米	2,913	2,235
欧州	2,670	2,536
中国	1,940	2,219
UK	1,492	1,356
中東	852	974
日本	522	439
韓国	129	215
アジア・パシフィック	488	520
合計	11,006	10,494



Sports Limited



Chauffeured Limited

最終モデルとなる特別仕様車を追加 メルセデス・ベンツSクラス

メルセデス・ベンツ日本は、2019年10月2日にメルセデス・ベンツ ブランドの最高級セダンであるSクラスに、特別仕様車の「Grand Edition」（グランド エディション）を追加しました。

今回の変更点まとめ

- 「Grand Edition」とは、メルセデスがモデル末期の特別仕様車に用いている名称。実質的に現行Sクラスの最終モデルになると思われます。
- 「Grand Edition」以外のモデルは受注生産となりました。
- トップエンドモデルのメルセデスAMG S 65 longは、ラインアップから外れています。
- プラグインハイブリッドのS 560 e long、V12エンジンを搭載するS 600 long、AMGモデルのメルセデスAMG S 63 long/S 63 4MATIC+ longなどは、受注生産モデルとして継続販売されます。

特別仕様車「Grand Edition」の詳細

- スポーティさを強調した「Sports Limited」（スポーツ リミテッド）と、ショーファーカーとして後席の快適性を強化した「Chauffeured Limited」（ショーファー リミテッド）の2本立て
- ノーマルボディのS 400 d / S 400 d 4MATIC およびS 450 Exclusiveには、「Sports Limited」を追加
- ロングボディのS 560 longとS 560 4MATIC longには、「Sports Limited」と「Chauffeured Limited」の2種類を設定

「Sports Limited」の装備内容



- ホイールは、20インチAMGマルチスポークホイールを採用
- インテリアは、AMGスポーツステアリング、ブラックポプラウードインテリアトリムを標準化
- S 400 d / S 400 d 4MATIC / S 450 Exclusiveでは、人気装備のAMGラインと、ベーシックパッケージ（パノラミックスライディングルーフ、クロージングサポーター、エアバランスパッケージなど）を標準装備
- S 560 long / S 560 4MATIC longでは、AMGライン プラス（AMGスタイリングパッケージ、ステルスアクセル&ブレーキペダル、ヘッドアップディスプレイなど）を標準装備

「Chauffeured Limited」の装備内容



- ロングボディのS 560 long / S 560 4MATIC longに、ショーファーパッケージ（後席リラクゼーション機能付マルチコントロールシートバック、エグゼクティブリアシート、リアエンターテインメントシステムなど）を標準化
- 後席にも新たにワイヤレスチャージングを装備
- ホイールは、19インチのディッシュホイールを採用

Sクラス Grand Editionの価格

S 400 d Sports Limited	12,150,000円
S 400 d 4MATIC Sports Limited	12,600,000円
S 450 Exclusive Sports Limited	13,950,000円
S 560 long Chauffeured Limited	17,300,000円
S 560 long Sports Limited	17,300,000円
S 560 4MATIC long Chauffeured Limited	17,660,000円
S 560 4MATIC long Sports Limited	17,660,000円

次期Sクラスについて



- 2020年に発表予定。
- ボディは従来よりも低いノーズが特徴的。ドアハンドルは格納式に
- インテリアでは、センターコンソールに大型のディスプレイを配置し、スイッチ類を大幅に削減
- 対話型インフォテインメントシステムのMBUXがさらに進化
- 安全運転支援システムは、レベル3相当の自動運転技術が採用される可能性も

COMPETITOR INFORMATION



ニューモデル	ランドローバー ディフェンダー
発表・発売日	2019年11月18日 予約受注開始
概要	<ul style="list-style-type: none">・新型ディフェンダーの先行予約モデル第2弾。第1弾のローンチエディションは4日で予定台数150台に・ボディは3ドアでコイル・サスペンションの「90」と5ドアでエアサスペンションの「110」の2種類を用意。「110」には3列シート仕様も設定・従来のラダーフレーム構造から軽量アルミニウムのモノコック構造となり、軽量化とねじり剛性の向上を実現
車両価格(税込)	ランドローバー・ディフェンダー 90 STARTUP EDITION：4,912,000円～6,809,000円 ランドローバー・ディフェンダー 110 STARTUP EDITION：5,967,000円～8,101,000円
デリバリー開始時期	2020年秋以降



特別仕様車	メルセデス・ベンツ SL 400 Grand Edition
発表・発売日	2019年10月30日 予約注文開始
概要	<ul style="list-style-type: none">・エクステリアでは、特別限定車専用のアルミホイール、フロント周りのディテール、フェンダーバッジを装備・インテリアはフルレザー仕様で、メルセデスAMG SL 65と同じダイヤモンドステッチがあしらわれた専用のナッパレザーシートを装備・上級グレードで設定されている機能装備を標準装備として設定
車両価格(税込)	メルセデス・ベンツ SL 400 Grand Edition：14,160,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル	ロールス・ロイス カリナン ブラック・バッジ
発表・発売日	2019年11月13日 発表
概要	<ul style="list-style-type: none">・同社の「レイス」「ゴースト」「ドーン」に続く最新の「ブラック・バッジ」モデル・内外装をダークトーンで統一。ハイグロスレッドに塗装されたカラードブレーキキャリパーを初採用・6.75L V12エンジンは、最高出力を29PSアップの600PSに、最大トルクは50Nmアップの900Nmに強化
車両価格(税込)	ロールス・ロイス カリナン ブラック・バッジ：45,300,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル	メルセデス・ベンツ GLC F-CELL
発表・発売日	2019年10月23日 発表
概要	<ul style="list-style-type: none">・世界初の燃料電池プラグインハイブリッド自動車。燃料電池と高電圧バッテリーの2つの電源により、モーターを駆動・約3分間の水素補給により、燃料電池で336kmの走行が可能・4年間のクローズエンドリース契約のみで、4年後には車両を返却する必要がある
車両価格(税込)	メルセデス・ベンツ GLC F-CELL：10,500,000円
デリバリー開始時期	—



特別仕様車	マセラティ ギブリ リベッレ
発表・発売日	2019年11月12日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・エクステリアにフルカーボンキット、インテリアにはインテリアカーボンキットを装備し、スポーティさを強化・インテリアは赤と黒のツートンインテリアが特徴。シート表皮には同社初導入となる本革のパンチングレザーを使用・ベースモデルは、もっともパワフルなギブリS。日本国内30台限定発売
車両価格(税込)	マセラティ ギブリ リベッレ：14,750,000円
デリバリー開始時期	—



ニューモデル	メルセデス・ベンツ E 350 de/E 350 e
発表・発売日	2019年10月23日 受注開始
概要	<ul style="list-style-type: none">・E 350 deは、日本初のクリーンディーゼル・プラグインハイブリッド乗用車。2.0L 4気筒ディーゼルターボエンジンに電気モーターの組み合わせ・E 350 eは、2.0L 4気筒ガソリンターボエンジンに電気モーターの組み合わせ・電気モーターのみでの航続距離は、E 350 deが最長50km、E 350 eは最長51km
車両価格(税込)	メルセデス・ベンツ E 350 e アバンギャルド スポーツ：8,520,000円 メルセデス・ベンツ E 350 de アバンギャルド スポーツ：8,750,000円
デリバリー開始時期	—

LIMITED EDITION



ベントレー モーターズはこのほど、特別仕様車「ミュルザンヌ 6.75エディション by マリナー」を発表しました。2019年12月号でも触れましたが、このモデルは6.75リッターV8エンジンの誕生から60周年を記念し、世界30台限定でミュルザンヌ Speedをベース車両として製造されるものです。ちなみに60年という期間は、同型のエンジンの製造期間としては世界最長です。これまでミュルザンヌはベントレーのフラッグシップモデルとして世界中で愛されてきましたが、今夏以降はその役割をフライングスパーに譲ることになります。

クリス・クラフト取締役（セールス&マーケティング担当）は、ミュルザンヌは、ラグジュアリーリムジンのセグメントにおいて、グローバルリーダーとしてベントレーの地位を維持する重要な役割を果たしてきました。まさにベントレーのフラッグシップモデルであり、世界で最も優れた自動車を手作業で組み立てるというベントレーが継続してきた取り組みの証でもあります。6.75エディションは、その成果の頂点と言えるでしょう」などとコメントしています。



ミュルザンヌ 6.75エディション by マリナーの特徴

オイルフィルターキャップを象ったエアコン吹出口のスイッチ
(オルガンストップ スwitchの代わり)

シートバックへの6.75リッターエンジンのモチーフの刺繍

エクステリアおよびエンジンルームの専用クロームバッジ

クロームバッジと同デザインのLEDウェルカムランプ

エンジンの線画入り盤面を備えたクロックおよびゲージ

「次の100年」に向けて クリス・クラフト取締役が語ったこと

昨年10月、ベントレー モーターズのクリス・クラフト取締役（セールス&マーケティング担当）が来日し、日本のメディアの取材に応じました。クラフト取締役の口から出たのは、次の100年をいかに素晴らしいものにするかという展望でした。そこで今回は、インタビュー記事をクラフト取締役のコメントを抜粋する形でご紹介します。

「次なる100年に向けたベントレーの展望とは？ 未来のラグジュアリーカー像を訊く」

GENROQ

『GENROQ Web』（2019年12月5日掲載）



次の100年もベントレーにはチャンスがある

記事の最初にクラフト取締役が語ったのは、100周年についてでした。ラグジュアリーカーブランドとしての長い歴史を振り返りつつ、世界中で100周年を祝うイベントを開催したことで「強い存在感を示すことができました」と語っています。

しかし、続いてクラフト取締役が強調したのは、「ベントレーは過去を振り返るだけの会社ではない」ということ。さらに「自動車産業はかつてない変革期を迎えようとしています。（中略）様々なチャレンジが

待ち受けていますが、私達はそうした変化が起きることを楽しみにしています。なぜなら次の100年間もラグジュアリーカーブランドであるベントレーには大きなチャンスがあると捉えているからです」と付け加えています。

電動化だけがサステイナブルではない

次にクラフト取締役は、ラグジュアリーカーの未来について言及しています。「優れたラグジュアリーブランドにヘリテージは欠かせません」と前置きしたうえで、「クラフトマンシップの歴史はもちろん重要ですが、それを次世代に向けて再解釈することも忘れてはいけません。そのためにはサステイナブルであることが重要です。サステイナブルといっても、自動車の電動化だけではありません。自動車に用いるエネルギーもサステイナブルなものである必要があります。工場もサステイナブルでなければいけません。そしてクルマに用いる素材もサステイナブルなものにしていきます」と話しています。すでにクルー本社と工場で実施しているカーボンニュートラルの取り組みと、それがカーボントラスト社から認定を受けたことなども紹介しています。

製品のサステナビリティとEXP 100 GT

製品のサステナビリティに関しては、クラフト取締役はあらためて電動化への取り組みを明言しました。2023年までに全モデルにハイブリッド仕様を用意すること、そして2025年にはベントレー初のフルEVを投入することなどです。この点についてクラフト取締役は「顧客に選択肢を提供することが、私たちのビジネスをサステイナブルなものにするうえで重要」としています。

ドライブトレインのみのサステナビリティではなく、ベントレーをベントレーたらしめているインテリアについても、サステイナブル化を進めていく姿勢をあらためて示しました。「インテリアに用いられた“リバーウッド”は湖や川で見つけ出された5000年以上前の倒木を利用しています。（中略）いわばリサイクル素材ですが、ここにベントレーらしいクラフトマンシップを応用し、希少な素材を作り出したのです」などと、EXP 100 GTを例に説明しました。

また、EXP 100 GTはAIを活用したベントレー・パーソナルアシス

タントが搭載されており、5つのモードの組み合わせによって光の演出を可能とする新たなラグジュアリー体験を提供できる点についても説明しました。

GENROQ Webは記事の締めくくりとして、「伝統のクラフトマンシップに裏打ちされたプロダクト、最新のテクノロジー、そしてカーボンニュートラルを達成した生産設備など、ベントレーはサステイナブルなビジネスを構築して将来に備えようとしている」と表現。クラフト取締役も「私たちには素晴らしい未来が待っています。（中略）ベントレーは世界でもっとも成功したラグジュアリーカーブランドで、未来に向けて明確な戦略を有しています。いま、私たちが取り組むべき仕事は、それらを実現させることにあります。ベントレーがどこに向かって進んでいくかは、EXP 100 GTが示しているといつて間違いのないでしょう」と語りました。



「ベントレー、次なる100年に向けて」

CG

『Car Graphic』（2020年2月号）



カーグラフィック（CG）誌もクラフト取締役のインタビュー記事をモノクロ1ページで掲載しました。記事はベントレーの100周年や将来を見据える重要性、環境への配慮、自動運転の時代への対応などに触れ、クラフト取締役の「変化が大いということは、言い換えれば非常にやりがいのある、エキサイティングな時代に生きているとも言えますね。われわれはラグジュアリー・セグメントの中で、常に最先端を行きたいと考えています」というコメントを掲載しました。

クラフト取締役はまた、ヘリテージ、レアリティ（希少性）、プリティッシュネス（英国らしさ）という3つの柱がラグジュアリーブランドにとって大事だとし、ベントレーはこの3つが揃っているため、最先端を行く態勢が整っていると語りました。そのうえで、“経験”や“体験”という近年の消費における変化に対し、「そのクルマを持つことでどういう経験ができるか、という点をより重視する傾向が強まっています。ラグジュアリー・ブランドを嗜好するお客さまは、自分の価値観がその製品に反映されているか否かということを見極め、それがあからこそ、その製品を持つ意味があると考えようになっているのです」と語っています。



2019 年に全世界で受けた栄誉は 25

ベントレー モーターズは2019年、全世界でさまざまな賞を受賞しましたが、その数が25に達しました。世界で最も人気のあるラグジュアリーカーブランドは、英国の「最も称賛される自動車メーカー」として、また最高級の自動車として認められたことを意味しています。

製品の受賞は15で、コンチネンタルGTが最多の10個の賞を受賞しました。発表されたばかりの新型フライングスパーも4つの賞を受賞。Top GearやCarwowといった影響力の大きなメディアからもラグジュアリーカー・オブ・ザ・イヤーを受賞しています。

製品以外のビジネス全般においてもベントレーは多くの賞を受けました。例えば Top Employer Institute が主催する「トップ・エンプロイヤー 2019」に選出されたり、アストリッド・フォンテイン取締役が「エンジニアリング部門で最も影響力のある女性100人」の1人に選出されたりしました。さらに、Management Todayからは「Most Admired Car Company (最も称賛される自動車メーカー)」を受賞したり、昨夏発表したコンセプトカー「EXP 100 GT」が Walpole British Luxury Awards の「フューチャー レガシー」に選ばれたり、ベントレーというブランドがUKだけでなく世界中で認められた受賞ラッシュの1年となりました。



2019年の受賞一覧

		主催団体・媒体	賞
製品	フライングスパー	Top Gear	ラグジュアリーカー・オブ・ザ・イヤー
		Carwow	ラグジュアリーカー・オブ・ザ・イヤー
		China Car of the Year	チャイナ・カー・オブ・ザ・イヤー
		Southern China Annual Auto	デザイン・カー・オブ・ザ・イヤー
	コンチネンタルGT	News UK Motor Awards	ブリティッシュ・ビルト・カー・オブ・ザ・イヤー
		German Design Council Awards	アウトスタンディング・プロダクト&コミュニケーション・デザイン
		MECOTY	カー・オブ・ザ・イヤー・ミドルイースト
		MECOTY	ベスト・ラグジュアリー・クーペ・ミドルイースト
		Gear Patrol	ベストプロダクト・オブ・ザ・イヤー (自動車部門トップ10)
		Robb Report	ベスト・グランドツアラ
		Robb Report	コンバーチブル・モデル・オブ・ザ・イヤー・チャイナ
		Acheizer Illustrierte	最もスタイリッシュなクルマ2020 in スイス
		COTY Portugal	カー・オブ・ザ・イヤー
		Global Times Bo Yuan Awards	インダストリー・リーディング・イノベーション・アワード
		MECOTY	ベスト・ミッドサイズ・ラグジュアリー SUV
	ペンティガ	Top Employer Institute	トップ・エンプロイヤー 2019
		AllAboutSchoolLeavers	トップ・オートモーティブ・エンプロイヤー for スクール・リーパーズ
	ビジネス分野・その他	Fairtraim	ワークエクスペリエンス・クオリティ・スタンダード金賞
		エンジニアリング部門で最も影響力のある女性100人：アストリッド・フォンテイン取締役	
		Automotive 30% Club	自動車業界で影響力のある女性：フォンテイン取締役ほか3名
		Management Today	最も称賛される自動車メーカー
		Management Today	ベスト・クオリティ・オブ・プロダクト
		German Design Council Awards	ファークラスのパートナーとしての「パーツ&アクセサリ」
		Walpole British Luxury Awards	フューチャー・レガシー for EXP 100 GT
		Pebble Beach	ベスト・ショー・アワード：ガーニーナッティング スポーツツアラ (1931年製)

MOTOR SPORT

2020年シーズンのモータースポーツ ワークスチームとカスタマーチームが世界 で躍動！



ベントレー モーターズによると、2020年のモータースポーツは、これまでにない規模のプログラムが展開されることになりました。ワークスチームであるベントレー・チームMスポーツは、GT3のレースとしては最高峰のレベルを誇るインターコンチネンタルGTチャレンジ (IGTC) にフル参戦します。また、世界各地における最高レベルのGT3レースには、ベントレーのエリート カスタマーチームが参戦する予定です。

チームMスポーツは、2013年からクルー本社で開発されたコンチネンタルGT3とともに、ワークスチームとしてレースに参戦。主にヨーロッパの舞台で多数の勝利を重ねてきました。2020年のチームMスポーツは、強化および改善されたカスタマー レース プログラムにより、全5戦で争われるIGTCでのキャンペーンとともに、ベントレーのチームに最高レベルのサービスを提供します。また、米国で2シーズンにわたり成功を収めたチームK-PAXレーシングは、大西洋を渡りGTワールドチャレンジ ヨーロッパ耐久カップに2台体制で参戦。ヨーロッパ有数のサーキットで、ベントレーが猛ブッシュして勝利する姿をお見せできるかもしれません。

日本においては、鈴鹿サーキットで8月21～23日に行われる「Suzuka 10 Hours」が、IGTC第3戦として開催されます。新しいカラーリングのコンチネンタルGT3と、ワークスドライバーたちの本気の走りに熱い声援をお願いいたします！

COLLECTION

ミュルザンヌW.O.エディションの 1/43スケールモデルなどが登場



ベントレー コレクションのミニカーのラインアップに、100周年を記念した特別仕様車ミュルザンヌW.O.エディション by マリナーの1/43スケールモデルが加わりました。実車と同様に100台限定で、オニキスのボディカラーやファイヤーグローの内装など、細かい部分まで忠実に再現しています。ベントレーの熱狂的なファンにとっては、夢を叶える1台となりますので、興味のあるお客さまに積極的にお勧めしてください。

ほかにも、2016年のジュネーブモーターショーで発表されたジュレップ×ベルーガのカラーで仕上げられたミュルザンヌSpeedの1/43スケールモデルや、シークインブルー×リネンのカラーリングのコンチネンタルGTコンバーチブルの1/43スケールモデルも加わっています。



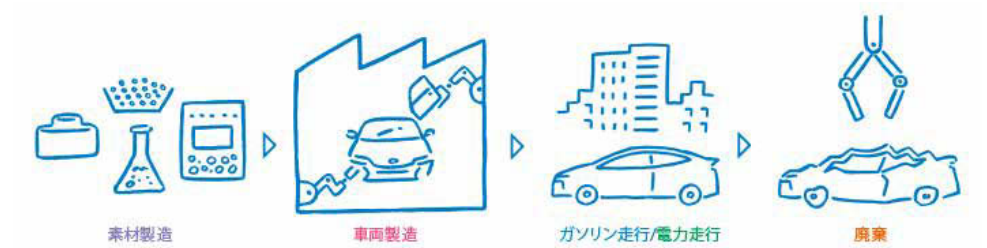
自動車業界が取り組むサステナビリティ

金属やエネルギーを使って大量生産されるのが自動車です。生産されてからユーザーによって使用され、そして廃棄されるまで、たくさんのエネルギーが消費されます。そのため自動車が環境に与える影響は非常に大きなもの。こういった背景から地球環境を守れるようにと、自動車業界は熱心に“サステナビリティ”、つまり“持続可能であること”に取り組んでいます。



LCA（ライフ・サイクル・アセスメント）の注目度アップ

地球環境のためにCO2排出量を減らそうというのであれば、走行中だけでなく、その燃料ができるまでを見ようというのが「Well to Wheel（ウェル・トゥ・ホイール）」です。そして、その考えをさらに推し進めたのが「LCA（Life Cycle Assessment：ライフ・サイクル・アセスメント）」です。これはクルマの素材から製造を経て、走行し、廃棄されるまでを通してCO2排出量を見るという考えです。走行中のCO2排出量がゼロでも、その前後で大量にCO2を排出するようでは、地球環境を守るためには意味がないというわけです。将来的には、燃費規制をLCAで行うという検討もされています。



材料から製造、走行、廃棄まで、クルマの一生で排出されるCO2を考えるのがLCA。

CAFEという燃費規制

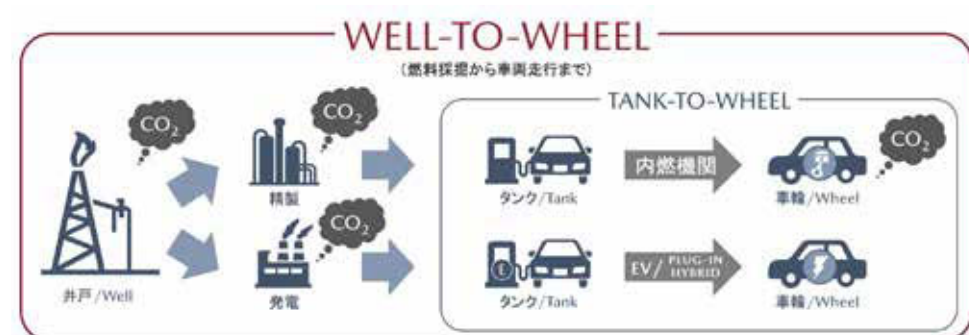
燃費規制の代表が「CAFE」です。これは「Corporate Average Fuel Efficiency」の略で日本語では「企業別平均燃費基準」となり、クルマ1台ごとではなく、その企業が発売するクルマ全体の平均で燃費を規制します。燃費の悪いクルマがあっても、他に燃費の良いクルマがあれば、相殺されるのが特徴です。そして、このCAFEによる世界各地の規制が年々厳しくなっており、特に欧州は、その傾向が顕著。なんと2020年規制では1km走行あたりCO2排出量が95グラム以下であることが求められています。これを達成するには、およそ25km/l以上の燃費性能が必要になります。しかも、規制をクリアできないと罰金が科されることになり、最悪の場合、数百億円以上の罰金を支払うことにも。CO2排出量ゼロのEVや燃費性能に優れたPHV（プラグインハイブリッド）が数多く発売されているのも、このCAFEの存在が大きいのと言えます。

燃費規制の値がCO2である理由

燃費規制にCO2の排出量が使われるのには理由があります。それはガソリン・エンジンに使うガソリンと、ディーゼル・エンジンに使われる軽油では、そもそも含まれるCO2の量が異なるから。そのため同じ量の燃料で同じ距離を走っても排出されるCO2の量に差が出ることになります。そこで、問題となるCO2をどれだけ排出しているのかを比べやすいように、燃費規制ではCO2の量が使われているのです。ちなみに、同じ熱量であれば、実のところCO2の排出量はガソリンの方が軽油よりも少ないのですが、たいていの場合、ディーゼル・エンジンの方が燃費性能に優れるため、最終的にディーゼル・エンジンの方がCO2排出量は少なくなります。

タンクからなのか油田からなのか？

クルマのCO2排出に関して、最近になって新しい考えが注目されるようになっていきます。それが「Well to Wheel（ウェル・トゥ・ホイール）」です。「Well」とは井戸のことで、クルマで言えば「油田から石油を精製して、輸送、そしてホイール（＝走る）まで」のトータルのCO2排出量を意味します。一方、従来は「Tank to Wheel（タンク・トゥ・ホイール）」で、燃料タンクから走るまでのCO2排出量です。地球環境を守るのであれば、その燃料を作るまでのCO2排出量を見る必要があるというわけです。EV（電気自動車）やFCV（燃料電池車）は、「Tank to Wheel（タンク・トゥ・ホイール）」で見ると、CO2排出量はゼロになりますが、「Well to Wheel（ウェル・トゥ・ホイール）」では、発電方法や水素の作り方次第ではCO2排出量がゼロにはならないことになります。



燃料タンクからではなく、燃料を作るところから走るまでを考えるのが「Well to Wheel（ウェル・トゥ・ホイール）」。

すべての背景にあるのがパリ協定

自動車業界がCO2排出量を減らすために努力しているのには、その背景に地球の環境保全があります。誰もが体感しているように、世界の気候はどんどんおかしくなっており、それを防ぐためにGHG（温室効果ガス）を減らそうと各国政府が動き出しました。そのひとつの成果が2020年よりスタートする「パリ協定」です。これは世界各国が「世界の平均気温の上昇幅を2度未満に抑える」ために、それぞれの国が目標を立てて実施するという国際的な約束。2015年のCOP21で成立しました。その目標実現のために各国は燃費規制を強化し、自動車メーカーもそれに準じて燃費性能を高めているのが現状です。



2015年のCOP21で成立した「パリ協定」。具体的には2020年からのスタートとなります。

国際的なサステナブルへの目標

自動車業界だけでなく、国連も「持続可能な開発目標」を打ち出しています。それが「SDG's（エス・ディ・ジーズ）」です。Sustainable Development Goalsの略となります。「パリ協定」と同じく2015年に国連で採択されたもので、世界1000万人もの人々のオンライン調査を経て生まれた目標です。17の目標と、その下のさらに細かい169個のターゲットが定められました。その中には「気候変動に具体的な対策を」や「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」「つくる責任、つかう責任」「産業と技術革新の基盤をつくろう」などの目標も存在します。



国連が採択した現在の世界的な目標が「SDG's（エス・ディ・ジーズ）」。